

# 2010年 首都圏“待機児童”レポート

## 2010年4月 保育園入園申請者についての調査より

都市部を中心に、認可保育園の待機児童は依然増え続け、大きな社会問題となっています。

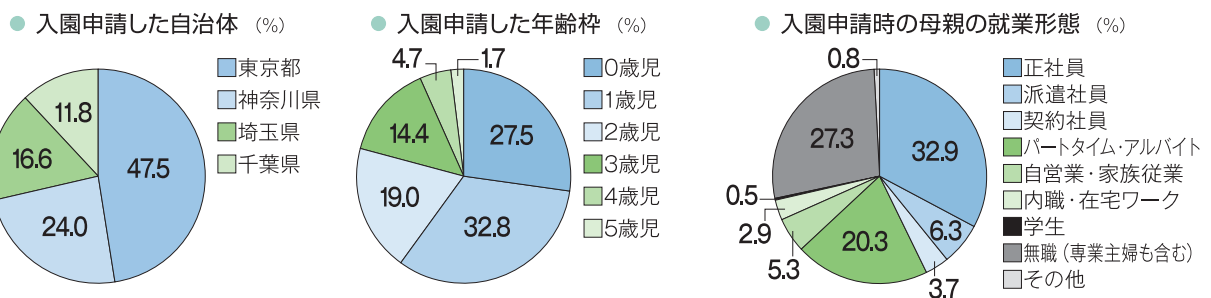
2009年に引き続き、待機児童の多い首都圏で、2010年4月入園に向けて認可保育園への入園申請をした母親を対象に、保育サービスへの入園・利用の実態や、保育園の入園に向けての活動など、最新の実態をレポートしました。

### 調査概要

2010年(今回調査)	2009年 ※1
● 調査対象： 2010年/2009年4月入園に向けて、認可保育園に入園申請をした母親	
● 有効回答数： 836人	720人
● 調査時期： 2010年7月3日～7日	2009年9月11日～13日
● 調査地域： 東京・神奈川・埼玉・千葉	東京・神奈川・埼玉・千葉
● 調査方法： インターネット調査	インターネット調査
● 調査項目： 保育園入園申請・利用の実態、入園申請に向けての行動や意識、保育料や補助の実態、働き方の希望、子育て支援へのニーズ、「子ども手当」の使い道、第2子出産意向(2010年のみ)など	

※1 2009年調査のレポートは、ベネッセ次世代育成研究所のホームページに掲載しています。  
[http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/research\\_08.html](http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/research_08.html)

### 基本属性(2010年調査)



\*図表の数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

OTH009

発行日：2010年9月15日

株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所

発行人：新井健一 編集人：後藤恵子

調査担当：高岡純子・持田聖子・松本留奈

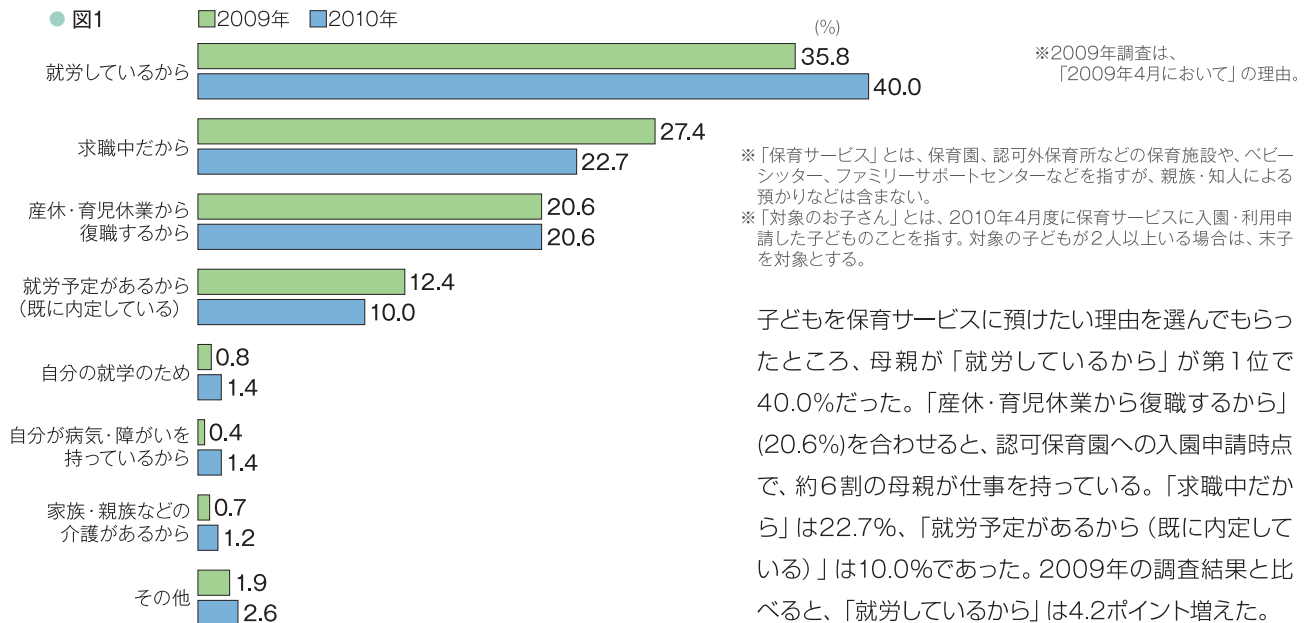
〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

Tel: 03(3295)0294 (10～17時 土日祝日と12～13時除く)

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/> (このレポートがダウンロードできます)

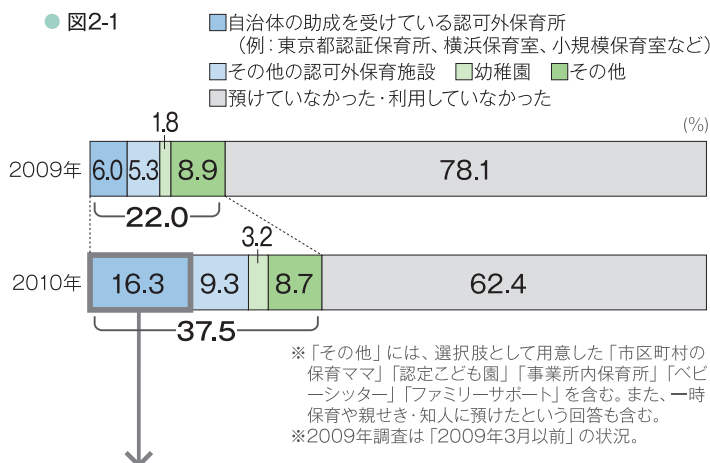
## 保育サービスに預けたい理由は、 第1位は「就労しているから」(40.0%)、 第2位は「求職中だから」(22.7%)だった。

Q 2010年4月において、対象のお子さんを保育サービスに預けたいと思われた理由を教えてください。

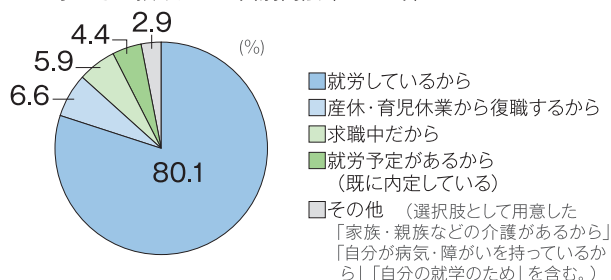


## 2010年3月以前に、既に子どもを認可保育園以外の保育施設・サービスに預けていた人は37.5%で、2009年より増加した。

Q 2010年3月以前の保育サービス利用状況を教えてください。利用されていた方は、直近の主な預け先をひとつ選んでください。



● 図2-2：子どもを預けたい理由別内訳 (2010年)

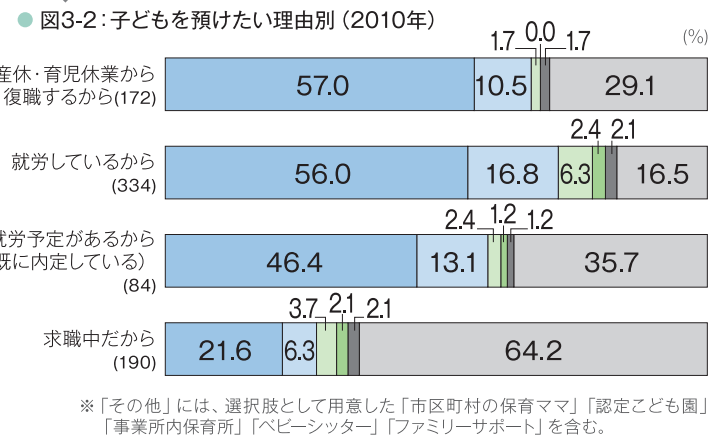
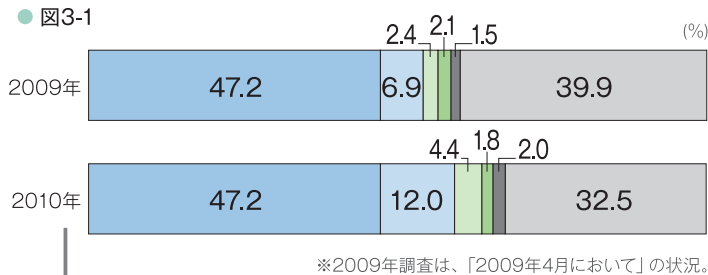


4月に向けて認可保育園への入園申請をした母親の内、3月以前に既に子どもを認可保育園以外の保育施設・サービスに預けていた人は合計37.5%だった。2009年での22.0%と比べて、今年は15.5ポイント増加した。預け先は、「自治体の助成を受けている認可外保育所(例：東京都認証保育所)」が16.3%で最も多く、2009年と比べて10.3ポイント増加した。「自治体の助成を受けている認可外保育所」に預けている母親についてみると、就労している人が80.1%であった(図2-2)。3月以前の保育サービスの利用割合が増えた原因としては、図1の結果より、2009年と比べ、4月入園時点で既に就労している母親が増えていることから、年度途中には空きが出にくい認可保育園ではなく、認可外保育所等に預けているケースや、2009年には認可保育園に入園できず、認可外保育所等で待機しているケースなどが考えられる。

## 2010年4月に認可保育園に入園したのは、申請した家庭の半数以下の47.2%。32.5%は、預け先が決まらなかった。

Q 2010年4月において入園・利用を決定された保育サービスについて、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 認可保育園
- 自治体の助成を受けている認可外保育所（例：東京都認証保育所、横浜保育室、小規模保育室など）
- その他の認可外保育施設
- 幼稚園
- その他
- 預けていない・利用していない



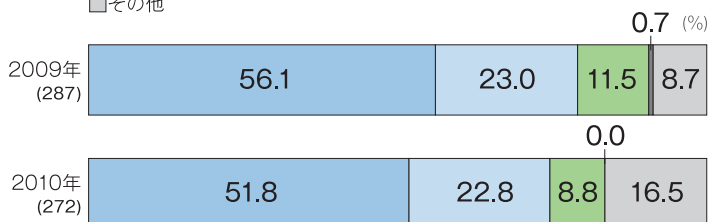
認可保育園に入園申請をした母親のうち、4月に「認可保育園」に入園が決まったのは、本調査では全体の47.2%で、昨年と同様、半数を割った。12.0%は「自治体の助成を受けている認可外保育所（例：東京都認証保育所など）」、4.4%は「その他の認可外保育施設」に入園した。2009年と比べて、認可外保育施設への入園割合は増え、どこにも預け先が決まらなかった割合は減った。

子どもを保育サービスに預けたい理由別に認可保育園への入園割合をみると（図3-2）、「産休・育児休業から復職するから」（57.0%）と「就労しているから」（56.0%）は半数を超えるが、「就労予定があるから（既に内定している）」は46.4%と半数を割り、さらに「求職中だから」では21.6%に下がる。認可保育園への入園においては、申請した家庭の「保育に欠ける」状況を指数化して入園選考を行うため、母親が既に仕事を持っている場合のほうが有利な結果になっている。

## 4月時点で、子どもの預け先が決まらなかった母親は51.8%が仕事、または再就職するのをやめた。22.8%は、自分または配偶者の育児休業を延長した。

Q（4月時点で預け先が決まらなかった人は）対象のお子さんの保育を行うために、どうしましたか。

- 図4
- 仕事、または再就職するのをやめ、自分で子どもの世話をすることにした
- 自分または配偶者の育児休業を延長し、子どもの世話をすることにした
- 祖父母・親戚に預かってもらうことにした
- 友人・知人に預かってもらうことにした
- その他

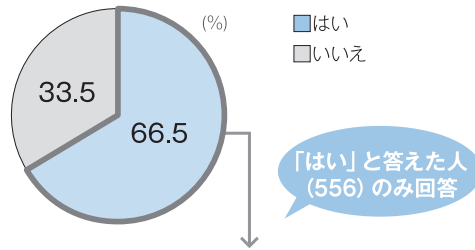


4月時点で預け先が決まらなかった母親には、対象の子どもの保育をどうしたのかをきいた。2009年よりは減少したが、半数以上の51.8%は「仕事、または再就職するのをやめ、自分で子どもの世話をすることにした」。22.8%は「自分または配偶者の育児休業を延長し、子どもの世話をすることにした」。8.8%は「祖父母・親戚に預かってもらうことにした」。「その他」を選んだ人の自由回答をみると、子どもを職場に同伴したり、一時保育のサービスを利用したり、自分で子どもの世話をしながら在宅で仕事をしたりなど、さまざまに対処していた。

## 約3人に2人は、申請前に保育園・保育施設の見学をした。

Q 入園申請前に、保育園・保育施設の見学はしましたか。

● 図5



入園申請前に保育園・保育施設の見学をしたかどうかをたずねたところ、66.5%が見学したと答えている。

さらに「見学した」と答えた母親に、見学した保育園・保育施設の数をつねたところ、約8割は複数の園を見学しており（図表省略）、見学した保育園・保育施設数の平均は3.2園であった。

Q 見学した保育園・保育施設の数をお知らせください。

平均 3.2園

※「21園以上」は21園として算出。

## 保育サービスを探すための活動において、第1子の母親のほうが大変さを感じている。しかし第2子以降でも半数以上の母親が、預け先が見つかるのか不安に思っている。

Q 保育サービスを探すための活動において、大変だったこと・困ったことは何でしょうか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

● 図6

	(%)	第1子 (507)		第2子以降 (329)
地域の待機児童が多く、自分の子どもの預け先が見つかるのか、不安だった	57.5	60.6%	>	52.9%
いつから活動を始めたらいのかわからなかった	38.0	46.2%	>>	25.5%
申請・申し込みの手順や資料作成が大変だった	36.5	37.7%		34.7%
どのように活動したらいいかわからなかった	36.0	43.0%	>>	25.2%
保育園を選ぶ基準がわからなかった	29.1	33.9%	>>	21.6%
子連れで役所や入園説明会、保育園の見学に行くのが大変だった	27.8	25.2%	<	31.6%
認可保育園の決定時期が遅いので、入所できなかった場合の預け先を探すのが大変だった	27.2	27.0%		27.4%
保育サービスについての基本的な知識をどこで調べたらいいかわからなかった	22.7	28.2%	>>	14.3%
役所の対応が不親切だった	21.3	19.9%		23.4%
地域の保育サービスに関する情報がどこにあるかわからなかった	16.6	19.3%	>	12.5%
行かせたいと思う保育園に通える範囲になかった	10.8	11.6%		9.4%
同じ地域で入園活動をしている友人との付き合いが大変だった	1.6	1.6%		1.5%
その他	3.3	3.9%		2.4%
特に大変だったこと・困ったことはなかった	9.8	7.7%	<	13.1%

※複数回答。 ※<>は5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上差がある項目。

※第2子以降とは、対象の子どもの出生順位が2番目以降の場合を指す。上のきょうだいが就学児か未就学児かは不明。

保育サービスを探すための活動において、大変だったこと・困ったことをたずねたところ、「地域の待機児童が多く、自分の子どもの預け先が見つかるのか、不安だった」（57.5%）が最も高かった。

さらに、子どもの出生順でみたところ、「申請の面倒さ」や「認可保育園に入所できなかった場合の預け先の確保」、「役所の対応への不満」などは差がみられなかったが、「いつから活動を始めたらいのか」「どのように活動したらよ

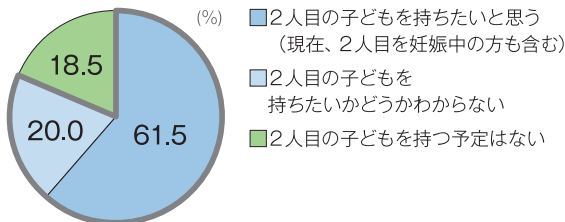
いのか」「保育園を選ぶ基準」「保育サービスについての基本的な知識」といった、初歩的なことごとらについて、第1子の母親のほうが、第2子以降の母親より大変だったと答えた割合が高かった。一方、第2子以降の母親のほうが割合が高かった項目は、「子連れでの活動」と「特に大変だったこと・困ったことはなかった」であった。第2子以降は、活動自体の大変さは軽減されるものの、預け先が見つかるのかという不安は、依然として大きいことがわかった。

## 2人目を考えている母親の8割以上は、 2人目が保育園に入園できるかどうか不安である。

現在、お子さんが「1人」と答えた人（475）のみ回答

Q 2人目の子どもを持つことについて、あなたの状況やお考えに一番近いものをお選びください。

● 図7



現在、子どもが1人であると答えた母親に対して、2人目の子どもを持つことについて、状況や考えをたずねたところ、「2人目の子どもを持ちたい」は約6割、「2人目の子どもを持ちたいかどうかわからない」は2割、「2人目の子どもを持つ予定はない」は約2割となった。

「2人目の子どもを持ちたいと思う」または「2人目の子どもを持ちたいかどうかわからない」と答えた人（387）のみ回答

Q 2人目の子どもを持つことについて、あなたのお気持ちにあてはまるものをひとつ選んでください。

● 図8

		ポジティブな気持ち		ネガティブな気持ち	
個人的	個人的	家族が増えて、にぎやかになる (387)	98.7		
		弟妹ができることで1人目の子どもが成長する (386)	96.9		
		きょうだい同士で遊ぶので、育児が楽になる (386)	75.9		
社会的	社会的	少子化社会に対して、貢献できる (375)	55.5		
		子どもが増えることでより大きな責任ができ、仕事にやりがいがある (382)	51.8		
負担感の増加	負担感の増加	経済的な負担が増えることが心配だ (387)	89.7		
		子どもが増えても、仕事と育児の両立ができるかどうか心配だ (378)	87.8		
		妊娠・出産・子育てにあたっての体力が心配だ (382)	75.7		
保育園	保育園	2人目の子どもが保育園の定員枠に入れるかどうか心配だ (372)	86.0		
		1人目の子どもと同じ保育園に入園できるかどうか心配だ (364)	82.1		
		2人目の育児中、1人目の子どもが保育園に在園できるかどうか心配だ (360)	73.1		
仕事	仕事	2人目の産休や育休から復帰後、仕事があるか心配だ (344)	70.9		
		復帰や再就職後、収入が減ることが心配だ (352)	62.5		
		再び産休や育休を取得することは、職場でひんしゅくではないかと心配だ (330)	60.3		
		仕事でのスキルアップや、昇進、昇給が滞ることが心配だ (338)	49.7		
夫の協力	夫の協力	夫が家事・育児に協力的でないことが心配だ (357)	39.8		

※「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。 ※「該当なし」回答者は分析対象から除く。

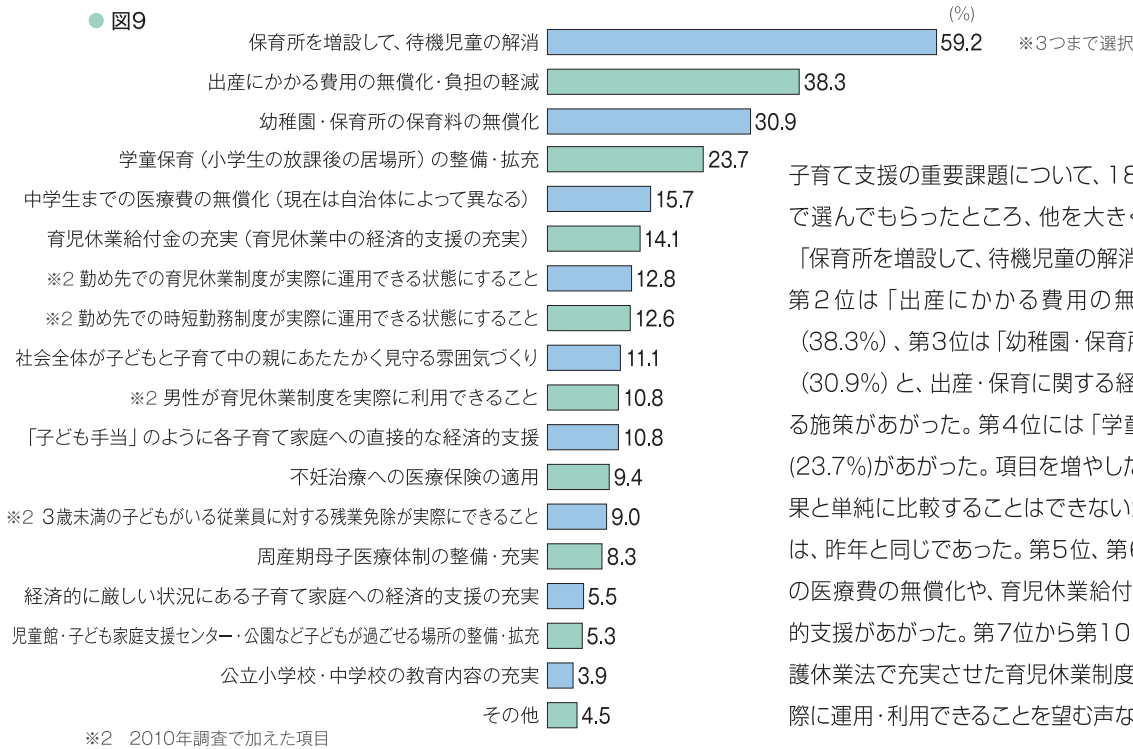
2人目の子どもを持ちたい、またはわからないと答えた母親に対して、2人目を持つことについての気持ちをたずねた。「家族が増えてにぎやかになる」(98.7%)「1人目の子どもの成長への期待」(96.9%)となり、2人目を持つことへのとてもポジティブな気持ちがうかがえる。

その一方で、2人目の子どもを持つことに対する不安を、「負担感の増加」、「保育園」、「仕事」、「夫の協力」に分類してみると、「経済的な負担の増加」「仕事と育児の両立への負担の増加」といった負担感の増加は約9割近い母親

が感じていた。また、「2人目が保育園に入れるか」「1人目と同じ保育園に入れるか」といった保育園に対する不安は8割以上の母親が、「復帰後、仕事があるか」「再度の産休や育休は職場でひんしゅくではないか」といった職場や仕事に対する不安は6割以上の母親が感じていた。なお、夫の協力に対する不安は、今回たずねた項目の中では最も少なかったとはいえ、約4割が感じていた。妻の仕事と育児の両立への負担を軽減するためにも、より一層、夫の協力が望まれるだろう。

## 子育て支援の重要課題は、「保育所を増設して、待機児童の解消」が第1位。次いで、出産にかかる費用や保育料の無償化など、経済的な負担減が望まれている。

Q より子育てしやすい環境を整えるために、あなたは妊娠・出産・子育てに関連するどの課題を解決するのが重要だと思いますか。

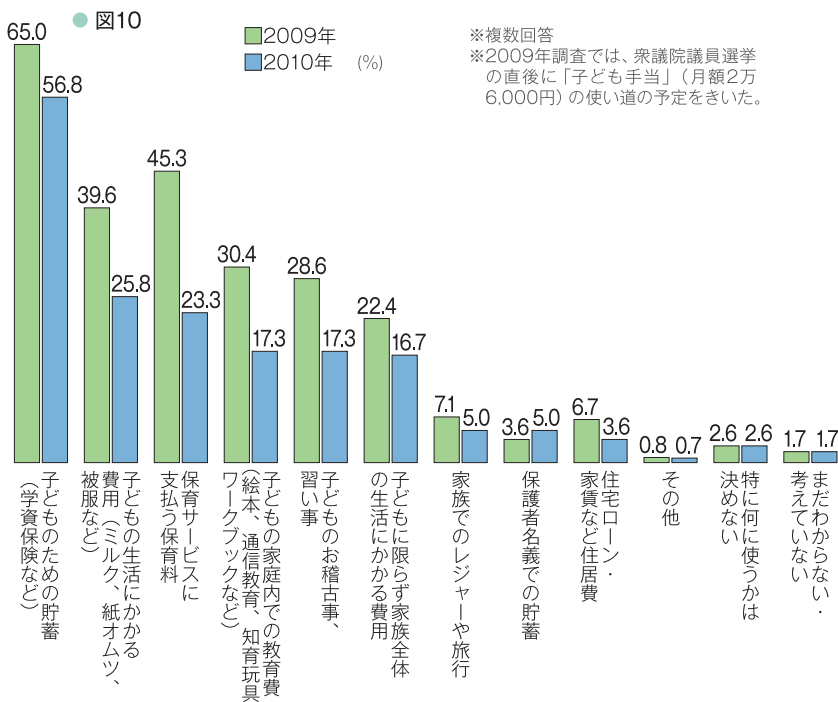


子育て支援の重要課題について、18項目の中から3つまで選んでもらったところ、他を大きく引き離して第1位は「保育所を増設して、待機児童の解消」（59.2%）だった。第2位は「出産にかかる費用の無償化・負担の軽減」（38.3%）、第3位は「幼稚園・保育所の保育料の無償化」（30.9%）と、出産・保育に関する経済的な負担を軽減する施策があがった。第4位には「学童保育の整備・拡充」（23.7%）があがった。項目を増やしたため、2009年の結果と単純に比較することはできないが、第1位から第4位は、昨年と同じであった。第5位、第6位には、中学生までの医療費の無償化や、育児休業給付金の充実などの経済的支援があがった。第7位から第10位には、改正育児・介護休業法で充実させた育児休業制度や時短勤務制度が実際に運用・利用できることを望む声などがあがった。

※2 2010年調査で加えた項目

## 支給が開始された「子ども手当」、使い道の第1位は、子どものための貯蓄（56.8%）。次いで、子どものための生活費や、保育料に充てている。

Q 「子ども手当」（中学生まで子ども一人あたり月額1万3,000円）の支給が始まりましたが、あなたはどう活用する予定ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。既に支給され、活用した方は、あてはまるものをいくつでも選んでください。



2009年の衆議院議員選挙では、民主党が掲げた「子ども手当」が大きな話題となった。選挙直後に、月額2万6,000円を前提としてきいた2009年の結果と、2010年6月から月額1万3,000円の支給が始まった今年の結果を比較すると、使い道の第1位はともに「子どものための貯蓄（学資保険など）」（2009年65.0%、2010年56.8%）だった。第2位、第3位は、「子どもの生活にかかる費用」、「保育サービスに支払う保育料」と、子どもの生活のための費用が選ばれた。第4位は、子どもの家庭内・外での教育費が同率で選ばれた。2009年調査と傾向は変わらないが、2010年は支給額が1万3,000円になったからか、2009年と比べてほとんどの項目の回答比率が下がった。

## 保育園入園活動 経験者ママからのアドバイス 428件のフリーアンサーから

調査回答者に、これから保育園への入園・申請を考えている人に向けて、  
自分が工夫・苦労したことや、アドバイスを自由に書いて頂きました。  
フリーアンサーの中から、多かった声をご紹介します。

### 早めの活動開始・情報収集が大切!

早めに情報収集することと、一つの選択肢にあまりこだわりすぎず、色々なパターンを想定して選択肢を増やしておくこと。(1歳児枠)

文書による基本情報収集は妊娠がわかっただけですぐにでも。それにより、育休終了時期や保育園見学・申込時期等、入園に向けての予定が立てられる。(0歳児枠)

### 保育の必要性をアピールしよう!

フリーランスの場合、とにかく外で働いているという証明、認可外保育施設に預けているという証明など、証明書の有無がものをいう。(3歳児枠)

保育園利用の理由をどんな小さなことでもたくさん書いて、働きたい・保育園に預けたいという意思をしっかりと伝えてください!(0歳児枠)



### 保育園は見学しよう!

園は実際に見学して、施設、保育の様子、先生がたの雰囲気、園長先生の人柄などを把握されることが必要だと思います。(1歳児枠)

園庭開放等を利用して、見学できる場所は行っておいたほうがいいと思う。(3歳児枠)

### 入園しやすい年齢・時期を考えて動こう!

0歳からはイチからのスタートで入園しやすく、1歳、2歳児は持ち上がりクラスのため、一番入りにくいと思う年齢枠なので、仕事復帰や仕事を始めるなどの場合は、子どもを預けるかどうかは早めに決めて、預けていったほうがいいと思う。(1歳児枠)

認可保育園は年度途中での入園はとても厳しいので、認可保育園に入りたいなら、4月入園をねらうとよい。(0歳児枠)

※各アドバイスは回答者の個人的な意見です。保育サービスへの入園が保証されるものではありません。  
※( )内は申請した年齢枠

### 調査全体をふりかえって

都市部の低年齢児を中心に、認可保育園の待機児童が増加し、大きな社会問題となっている。

本調査では、認可保育園の4月入園申請者において、既に就労している母親の割合が2009年と比べ、増加しており、より認可保育園への入園優先度の高い家庭が増えている。調査対象の首都圏でも、認可保育園の定員は拡大されているが、入園希望者数も増加しているためか、4月時点での認可保育園入園割合は本調査では昨年と同じ47.2%で、依然として厳しい結果となった。昨年と比べて、入園・利用割合が増えたのは、「自治体の助成を受けている認可外保育所(例:東京都認証保育所)」と認可外保育施設・サービス等で、それらを合計した数値

は12.9%から20.2%になった(7.3ポイント増)。その結果、預け先がどこにも決まらなかった母親の割合は、39.9%から32.5%へ7.4ポイント減った。

保育園選びにおいて、57.5%の母親が、「地域の待機児童が多く、自分の子どもの預け先が見つかるのが不安だった」と回答した。引き続き、待機児童の解消は、社会的な課題であろう。子育て支援の重要課題は「待機児童の解消」(59.2%)が第1位にあげられ、他の項目を20ポイント以上引き離れた。支給が始まった「子ども手当」の使い道は、「子どものための貯蓄(学資保険など)」が56.8%で第1位だった。